

みんなあでつながる！ひろげる！地域のチカラ

プラットフォー

こ

う

ち

高知県社会福祉協議会広報誌



15歳から49歳までの

働きたい！ 学びたい！

を支える、若者サポートステーション

2023
4月号

vol.6

contents

- ボランティア・NPO情報 てをつなGO！ —— 6
ひとりひとりが認められる「こどもまんなか社会」に向けて
- シニアのちょっといい話 —— 8
矢井賀をよくする会 | 高知県シニア連盟 | 高知県サイクリング協会
- プラットこうち人 森田有紀さん —— 10
- 高知県社協からのお知らせ —— 11
- 市町村社会福祉協議会ご紹介 —— 12
宿毛市社会福祉協議会



PROGRAM 01

自分のこと
将来のことを
一緒に考える。

こうち・なんこくサポステは「担当制」です。利用者一人ひとりにそれぞれ担当スタッフが付き「個別面談」を行いながら、各種セミナー等を通して就労に向けて歩んでいきます。

たとえばハローワークに同行するなど、利用者と一緒に就職活動の支援を行います。また臨床心理士による「心理面談」や、キャリアコンサルタントによる「進路面談」も行っています。

サポステはあなたに寄り添い、将来のことを一緒に考えていきます。

15歳から49歳までの

働きたい! 学びたい!

「働きたいけど、仕事が決まらない…」 「自分に合った仕事が見つからない…」 「今まで働いたことがなく、働く自信がない…」 「履歴書の書き方や面接の仕方を教えてもらいたい」 「高卒認定試験に合格したい」

こうした就職や修学に関する悩みや不安を抱えた15歳から49歳までの方を支援しているのが、高知、南国、須崎、安芸、四万十の各市にある《若者サポートステーション》…略してサポステです。今回のプラットふくしこうちでは、サポステの活動内容を紹介するとともに、サポステで仕事を見つけた先輩にサポステを利用してみてどうだったか、お話を伺いました。



PROGRAM 02

様々なセミナーで
知識やスキルを
身につける。

ビジネスセミナー

言葉遣いや面接マナー、「報告・連絡・相談」のポイント、電話応対の仕方やメモの効果的な取り方など、仕事をするうえにおいて基礎的な知識や技術がやさしく学べます。このように実践的な知識や技術を身に付けておけば就職に活かすことができます。

コミュニケーションセミナー

人とコミュニケーションをとることに慣れるためのセミナーです。「感じよく聞く練習」、「分かりやすく話す練習」、「人との接し方」などを、コミュニケーションゲームやグループワークを通じて身につけていきます。

キャリアアップセミナー

将来自立した生活を送るために必要な知識を、キャリアコンサルタントが分かりやすく解説するセミナーです。自分自身の職業に対する興味関心や適性を知ること、履歴書の書き方や面接の受け方、社会保険や年金制度など将来に役立つ知識を学びます。

パソコンセミナー

仕事をするうえでパソコンを使いこなすことは必要です。文書作成ソフト「Word」や表計算ソフト「Excel」が使えるようにパソコンの基本を学びます。このセミナーは自学自習です。初心者の方は入力練習から始めることもできます。サーティファイテキストを使って自分のペースで学べるようになっています。もちろん、わからないことはスタッフに質問できます。



PROGRAM 03

進学や復学、
高卒認定試験などの
学び直しをサポート。

様々な理由で高校へ進学できなかった方や、高校を中退した方の高校への進学や復学、高卒認定試験の受験をサポートします。少人数の学習ルームでの勉強や担当スタッフとの個別学習で、それぞれの目標や進度に合わせて学習を進めます。勉強の仕方やコツなどのアドバイスのほか、合格後の進路についても一緒に考えていきます。

※高卒認定試験(高等学校卒業程度認定試験)とは:高等学校を卒業していないなどのため、大学等の受験資格がない方に対し、高等学校卒業者と同等以上の学力があるかどうかを認定する試験であり、文部科学省が年に2回実施しています。

を支える、若者サポートステーション こうち・なんこく若者サポートステーション

い…」

PROGRAM 04

職場見学・体験も可能。
自立に向けての
就労をサポート。

将来自立して生活していくために、仕事に触れ、慣れていきます。

今まで仕事をしたことがない方や、以前に仕事経験はあるけれどしばらく仕事から遠ざかっている方が安心して一歩踏み出せるように、職場見学・職場体験の機会を設けています。職場見学で、職場の雰囲気や仕事内容に触れ、希望があれば職場体験して仕事に慣れていきます。期間は担当スタッフとの相談のうえ、希望に応じて行います。体験先は主に福祉施設や商業施設、製造業やサービス業、農業などです。



PROGRAM 05

就職氷河期世代の
再スタートを
サポート。

就職氷河期世代とは、バブル崩壊後の景気後退で厳しい就職活動を強いられた世代です。正社員や安定した職に就けず、非正規、派遣やパート・アルバイトなどの働き方に納得していなくても受け入れるしかありませんでした。転職したくても「この年齢では何もかもが遅いだろう」という考えが真っ先に浮かぶかとも思いますが、今からでも決して遅くはありません。得られるはずだった「安定」を目指そうと思われる方を、こうち・なんこくサポステが支援していきます。



今では完全に ストレスフリー! サポステにきて ラッキーでした!

Aさん 40代 男性



ぼくでなければなんでも話します!! そう言いながら笑顔で出迎えてくれたのは、郊外のビニールハウスでピーマンの収穫をしているAさん。

Aさんはいわゆる就職氷河期世代。県外のスーパーなどでバイトや派遣社員として働いた後に物流系の仕事に就いていましたが、頑張りすぎて体調を崩し、高知へ帰ってきました。

サポステに登録したのは令和2年の初夏。ちょうどサポステで就職氷河期世代の支援が始まったのと同時期にコロナ禍も始まりました。

「病状が重くて家に引きこもっていたんですが、そのうち生活費に困ってきて。サポステには兄と一緒に行ってくれたのですが、あまりに体調が悪くて、そのころの記憶はあいまいです」

サポステでの支援は、当面の生活費確保からスタート。役場の生活困窮担当者へつなぎ、緊急小口資金の貸付申請等を行いました。体調の波もあるためサポステへの来所ができないこともありましたが、相談員から「春になったしそろそろちょっと体を動かしてみん?」とリハビリも兼ねて40代限定ジョブ体験での農業を勧められたそうです。

「それまではいわゆるサラリーマンで農業は初めてでしたが、農園の方が自分の状況をよく理解してくれたので、これなら続けられると思いました」

その後、縁あってAさんはこの農園で働くように。忙しい時期は週6日、8時から17時までの勤務ですが、収穫量によって勤務時間は変わります。週6日は大変なのは?と聞くと、力強く「ストレスフリー!!自分のペースでやれるので全然疲れないです!」と笑顔満開。現在は病院への通院回数も減り、薬の量も減っているそうです。「植物に触れると元気がでます。特に精神的な事情のある方にはお勧めしたいですね」

今の目標は頑張りすぎないことだそうです。頑張りすぎる前にプレートを踏んで調整する。つつい無意識に頑張りすぎてしまった過去からの学びです。

「一歩踏み出すためには、まず自分のことを知ることが大事です。サポステは自分のことを発見してくれるし、可能な限りサポートしてくれる。サポステに来ることができてラッキーでした」

ピーマンの豆知識なども親切に教えてくれたAさん。別れ際、両手を大きく振って見送ってくれました。



ピーマンを収穫するAさん



高知県内で介護関係の仕事をしているBさん。高校生のとき不登校になり、専門学校に入学したものの進路に迷い、本人曰く、なかば親に引きずられるような形でサポステにやってきました。

「私のもとと自分から助けてとは言えないタイプ。それに、悩みがあっても親や友達には言えないことってありますよね。だから、サポステのように第三者の立場で話を聞いてもらえるところは大切です」

その後、通信制大学に入学し社会福祉士の資格にも挑戦、見事合格!通信教育での自主学習はどうしても心が折れたり不安が渦巻いたりしますが、そんな時もサポステの相談員に話を聞いてもらい、よし、明日から頑張ろうという気持ちになったそうです。

卒業後は、児童関係の仕事を経て現在の介護の仕事に就きました。介護の仕事は初めてでしたが、普段反応が少ない認知症高齢者に「ありがとう」とお礼を言われやりがいを感じるなど、徐々に経験を積んでいる途中です。「レクリエーションを実施する前はちょっと今日はしんどいなと思っていても、終わったらいつのまにか疲れが吹き飛んで楽しい気持ちになっている自分に気がつきます。」

サポステで アウトプット してみよう!

Bさん
20代 女性



Bさんの相談の様子

利用者さんから元気をもらっているんですね」とにっこり。

一歩踏み出すことに悩んでいる方にメッセージをお願いすると、「みんなサポステにきてまずはアウトプットして!と言いたいんです。悩みやしんどさを吐き出さないと動きたくても動けないですよね?サポステに行ったら自分の選択肢が増えるし、困ったことをいっしょに解決してくれますよ。真っ直ぐなまなざしが印象的な女性でした。」

サポステ担当スタッフ・島村からひとこと

真っ直ぐでとても素直なBさん。頑張り過ぎてしまうことが心配ですが、困ったことがあれば自ら助けを求めてくれるので安心しています。幸せになってね。

サポステスタッフは、 あなたの サポーターです!

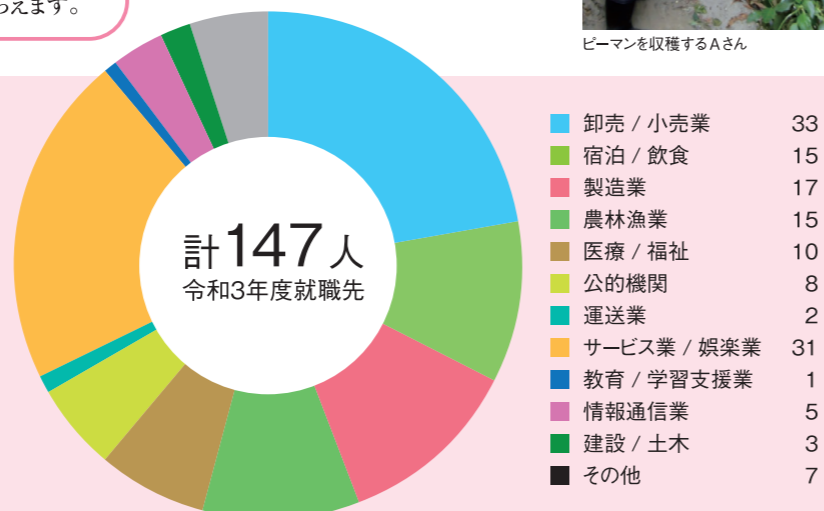


2ページの「PROGRAM01」でも触れているように、サポステは利用者一人一人に担当スタッフが付き、それぞれの状況や個性、思いに向き合います。

一緒に笑いながら、語り合いながら、私たちサポステスタッフは利用者の皆さんひとりひとりに伴走します。困った時には相談に乗ったり、度胸が欲しいときにはその背中を後押ししたり、もしも失敗をしたらしっかりとサポートしたり。まずは、ご連絡ください。

サポステを経て、 こんな仕事で がんばっています!

こうち・なんこくサポステでは、令和3年度に登録した方が252人。進路が決定したのは201人(進学含む)です。



高知県下のサポステは全部で5ヶ所!
まずはお気軽にご相談ください!



こうち若者サポートステーション

〒780-8567 高知市朝倉戊375-1
県立ふくし交流プラザ
TEL.088-844-3411
FAX.088-844-3852
saposute@pippikochi.or.jp
[利用時間] 10:00~17:00
[休所日] 日曜日、月曜日、祝日



すさきサテライト

〒785-0013 須崎市西古市町1-24
高知県須崎総合庁舎3階
携帯.080-1993-1768 TEL.0889-43-9004
susaki-sapo@pippikochi.or.jp
[利用時間] 10:00~17:00
[休所日] 土曜日、日曜日、祝日



なんこく若者サポートステーション

〒783-0002 南国市駅前町2-4-72
TEL.088-863-5078 FAX.088-855-3366
nankoku-sapo@pippikochi.or.jp
[利用時間] 10:00~17:00
[休所日] 日曜日、月曜日、祝日

あきサテライト

〒784-0007 安芸市寿町2-8
総合社会福祉センター2階
携帯.080-1993-1767 TEL.0887-37-9767
aki-sapo@pippikochi.or.jp
[利用時間] 10:00~17:00
[休所日] 土曜日、日曜日、祝日

幡多地区の方はこちら!

はた若者
サポートステーション

〒787-0051 四万十市具同田黒1-10-5
TEL.0880-34-9100
FAX.0880-34-8080
hata-sapo@npo-tunagaru.net
[利用時間] 9:00~17:00
[休所日] 土曜日、日曜日、祝日
(NPO法人若者就職支援センターつながるねっど)



特定非営利活動法人

Global Education Lab 高知

グローバルエデュケーションラボ高知

高知県高知市はりまや町3丁目17-16おのビル1F (088・881・6788)

ひとりひとりが 認められる 「子どもまんなか社会」に 向けて

令和5年4月からのこども家庭庁の発足に向け、
こどもに関する法律の整備などが進んでいます。
今号では、実際に地域で
ひとりひとりの子どもたちに寄り添いながら
「子育て」や「教育」を行う2つの団体を紹介します。



特定非営利活動法人 スマイルはたっこ

高知県四万十市中村桜町52番地
(080・4033・5753)

高知県西部・幡多地域を拠点に、「こっこ」子育てで「よかった!」「大人になってもこっこで喜ばされた!」「そんな想いをお父さんお母さん、そしてすべての子どもたちに持ってもらえるよう、教育普及やまちづくり支援をはじめさまざまな取り組みを行っているのが、特定非営利活動法人「スマイルはたっこ」です。

参加条件は仮装!? 「ゴミ拾いウォーク」

「スマイルはたっこ」の理事会では、常に地域に横たわる課題を意識しつつ、「楽しさ」を大事にしたアイデア出し、楽しい雰囲気での話し合いを重視しています。子どもから大人までそれぞれが思い思いの衣装に身を包んでゴミを拾うイベント「ゴミ拾いウォーク」は、理事会で「仮装してゴミ拾いのまに楽しいよね」と盛り上がり、その流れのままに開催したものだそう。楽しそうにみんなでゴミを拾っていると、地域の人も自然と一緒にゴミを拾ってくれるそうです。

利用するすべての人をサポートする

四万十市から委託を受けて運営にあたっているファミリーサポートセン



英語を通じて育むグローバル教育!

人材育成のための国際教育環境づくり

GEI高知は、「子育てママのこどもとふれあう英語の会」の活動を通して出会った仲間たち...たとえば日本に縁のある外国人やALTT^{*}、在外日本人、ママボランティアや英語講師などが、高知の国際教育の環境づくりとグローバル人材の育成を目的として、2018年秋に設立したNPO法人です。

「デン・ナイン・エイト・セブン!」
こんな大きな声が響き渡るのは、オープン前の葛屋書店の一角。20名ほどの親子連れが集まって「グリッシュバルズ」です。
前に立つ先生役は、年中さんから中学生までの子どもたち。最初はおらずと遠巻きにしていた生徒たちも、手を変え品を変えのプログラムを体験しているうちにノってきて、声が出るようになっていきます。30分後には、英語の指示で楽しそうに走り回っていました。
この「イングリッシュバルズ」は、特定非営利活動法人Global Education Lab高知(グローバルエデュケーションラボ高知、以降GEI高知)が葛屋書店とコラボして開催している親子英語しかのイベントで、二カ月に一回、日曜日の朝に開催されています。

英語で学ぶ英会話教室の運営や、幼稚園などへの英語イベントはオーテピア高知図書館とも共催しています。ほかにもカリフォルニア在住理事による留学の相談会や、デンマークの生涯学習の学校の専門性を活かした事業も実施しており、今後は先進的な教材の提案や小中学校の先生へのアドバイス、日本人も外国人も誰でも立ち寄ることができるグローバルコミュニケーションセンターの活動を行っています。



クリスマスイベントの様子



合言葉は「Let's have fun!」

*1 外国語指導助手。外国籍の場合が多い。
*2 北欧全土に広がる、大人のための自主性を尊重する私立学校群。フォルケホイスコーレと呼ばれる。

ター事業では、たとえば保育所への送り迎えなど子育てを手伝ってもらいたい「おねがいさん」と、保育所や児童クラブの後の預かりなどを通して子育てを応援することを願う「まかせてさん」とをマッチングする役割を担っています。
こうした事業では、どうしても「おねがいさん」の側をいかに支えるかに目が向きやすいのですが、「スマイルはたっこ」では慣れない「子育て応援」でさまざまな困難に直面することになり「まかせてさん」の活動も力を入れていきます。
それぞれの立場に寄り添ったサポートを丁寧展開していくことで、利用者の高い満足感を生み出しています。

地域の子どもを地域全体で育てる

居心地の良い地域を目指して

近年、「ヤングケアラー」や「ワンオペ」など子どもや子育てに関する暗い言葉を耳にすることが多くなってきましたが、そうした時代の中においても、「スマイルはたっこ」では子どもに関するポジティブワードをひとつでも多く生み出したいと願っています。
「スマイルはたっこ」がこれからも力を入れていきたいと考えているのが、「何かをする」ではなく、「自然とそこに子どもたちが「居たくなる」、第三の居場所づくり。「孤育て」にならぬよう、多くの人が子育てに関わりあいながら、地

子供たちに世界に羽ばたける力を!

GEI高知が考えるグローバル人材に必要なことは何かとお伺いすると、「第一に言語を基本として、自分の国を愛し、自分の思考を持ち、多様性否定せずにダイバートできるグローバル脳を持つことだ」と思います。」との答えが返ってきました。
そのような高い能力を持った人材は一度ふるさとを出てしまったり戻って来ず、結果として人材の流出に繋がってしまうのでは?と、素朴な疑問を投げかけてみました。
「そうであっても地方での国際環境づくりが大切なんです。地元でグローバル教育を受けたことで、ふるさとのことを誇らしく思う心が育まれるかもしれない。いずれ力をつけて地元に戻ってくる人も知れない。わたしたちは、地方でも国際人材の育成が可能なことを証明したいと思っています。」



「おねがいさん」と「まかせてさん」のマッチングの様子

域の子どもを地域全体で育てていく。そんな優しい地域を目指して、日々取り組みを進めています。



「まかせてさん」と過ごす子ども

高知県シニア連盟

会員数は75名で、88歳が最高齢者。高知県バドミントン協会に所属する「高知県シニア連盟（以下連盟）」は、59歳から加入できるバドミントンの団体だ。

連盟会長の中村聡子さんは、高校生の頃にバドミントンを経験。仕事での中断を経て36歳で再開し、79歳となった現在まで続いている。トルコで開催された世界シニア選手権では優勝、スウェーデンでの大会では準優勝したこともある実力者で、その強さの秘訣は「ただ負けず嫌いなだけ」とのこと。連盟には70歳以上部門のダブルスで準優勝した87歳と88歳のペアがいたり、全国でも上位の成績をおさめる選手がいるそうだ。

練習は月に1回程度、南国市の国府小学校の体育館で朝9時半から夕方4時まで。それ以外の日は、それぞれ自分が所属しているクラブで練習しているという。体育館の入口にはメンパーが作ったひがしやま（お芋）やお米、野菜などが並んでいて、これらを譲り合ったり売り買いするのも楽しみの一つとなっているようだ。

午前中は軽めのウォーミングアップ、お昼の休憩をはさんで、午後は実戦的な練習試合。取材に訪れた日は20数名の参加だったが、年齢をまったく感じさせない軽快な動きで楽しそうにシャトルを打ち合っている。ねんりんピックでの活躍も期待したい。



今年10月に開催される「ねんりんピックえひめ2023大会」では、新たにバドミントンとサイクリングが交流種目として追加されます。この2つの競技団体の方にお話を伺いました。

Badminton

高知市から春野へとのびる土佐道路に、高知の自転車好きなら誰でも知っている老舗自転車店「サイクリングショップヤマネ」がある。長年にわたり愛されてきたこのお店の顔役を路店以来陰に陽に務めてきたのが、山根由紀子さん。

店頭には、さまざまな用途にあわせてつくられた無数の自転車が天井から床まで一面に並び、まさに圧巻！。それぞれ用途にあわせた自転車があり、自分の使い道にあった自転車を選ぶことができます。

たとえばロードバイクは自転車レースのために誕生したスポーツ用途の自転車ですが、街中で見かけることが増えてきています。また、よりふだん使いに適したクロスバイクは、今では高校生が通学で使う様子が多くみられるほど、日常風景に溶け込んだ自転車になっていきます。

「サイクリングは、一人でもグループでも気軽にできるスポーツです。ただ歩くよりもぐっと行動範囲も広がりますし、どんな自転車でもチャレンジできます」と山根さん。定年退職を機に自転車を始める方も多そう、お店にもシニアのお客さんがよく相談にみえるそう。サイクリングがねんりんピックの交流種目として取り入れられることを契機に、今後シニア世代の中で自転車熱が高まっていくことも考えられそうです。

●サイクリング

高知県サイクリング協会

Cycling



地域を元気にするために

中土佐町矢井賀地区で活動する「矢井賀をよくする会」では、矢井賀コミュニティセンターを拠点に月2回のモーニング、季節の催しなどを開催している。

「矢井賀をよくする会」が生まれたきっかけは、2009年の矢井賀小学校の閉校だ。地区全体の世帯数が減り続け、ついには子供たちの元気な声も聞こえなくなってしまうという状況下で、矢井賀地区を自分たち自身の手で元気にするために、そしてしっかりと盛り上げていくために立ち上げられた。

住民みんなが楽しめる活動を

月2回のモーニングでは、炊き込みご飯やポテトサラダなどのおかずをつくり、販売ならびに独居高齢者への配達を行っている。地区には喫茶店などもないため「毎週やってほしい」「来週はやらんが?」という声が寄せられるほど、住民の楽しみになっているようで、こうした場を通じて定期的に顔を合わせることが見守り活動にもつながっている。

季節の催しとしては、春にはひな祭り、冬にはクリスマスのイルミネーションなどを開催している。地域住民だけではなく、高知市からも人々が訪れるほどのイベントになっており、地域に活気が溢れている。今年はコロナ禍の影響でしばらく開催できていなかった地域の運動会を再開するそうで、高齢者でも参加することができ住民みんなが楽しめる種目と併せて芸能大会など踊りを披露する場づくりをするという。

モチベーションはみんなの笑顔

活動を行う中で地域住民が喜んでくれること、地域に活気が溢れることが会のメンバーにとってもやりがいや生きがいとなっていて、それが再び会の活動の原動力になり、さらに地域が活気づく催しづくりにつながっていく好循環が生まれている。また、会のメンバー自身が楽しみながら活動しないことには、地域住民が楽しめる催しづくりもできないという想いがある。メンバーの皆さんの話を伺う中で感じられたのは、いきいきとした楽しさや「みんなで地域を盛り上げていこう」という強い想いだ。

今後も、月2回のモーニングはもちろんのこと、夏は盆踊り、秋は運動会、冬はイルミネーション、春はひな祭りなど活気溢れる地域にするために定期的にできる催しを考えていきたいという。地域が元気でいられるように、「矢井賀をよくする会」はさらに一丸となり、皆が楽しめることを今後も継続していく。

地域の人を想い、活気あふれる地域を創る

矢井賀をよくする会

中土佐町



シニア世代の皆さんが生きがいのあるセカンドライフを送るための参考となるような、県内でいきいきと地域活動をされている皆さんをご紹介します。



(上)バザー開催時の様子 (下)祭りで配付するおもちづくり

高齢者生きがい・健康づくり支援事業 助成金の応募がスタート!

高齢者の生きがい・健康づくりに取り組む団体やサークル活動に対して、5万円を限度に助成を行います。詳細は、本会ホームページからご覧ください。

[申込・問合せ先]
高知県社会福祉協議会いきいきライフ推進課
TEL: 088-844-9054 FAX: 088-844-9411
E-mail: ikigai@pippikochi.or.jp



ナツボラ(夏のボランティア体験キャンペーン)2023 受入登録団体募集!

若者のボランティア活動の裾野を広げ、多様なボランティア活動を地域に充実させていくことを目的とした「ナツボラ」を今年も開催します! ナツボラ実施にあたり、県内各高等学校、大学等に配布する「ナツボラガイド」に掲載する団体とボランティアプログラムを募集します(要事前登録)。



あなたの施設、団体、地域が若者の力で溢れる夏にするため、一緒に「ナツボラ」に取り組みませんか? たくさんのプログラム登録をお待ちしております!!

詳しくは、下記までお問い合わせください。
[受入登録期間] 令和5年4月3日(月)~5月19日(金) ※必着
[問い合わせ先] 高知県社会福祉協議会 ボランティア・NPOセンター
TEL: 088-850-9100

高知県社協からのお知らせ

令和5年度 第1回ふくし就職フェア今夏開催!!

県内の福祉事業所が一堂に介して、就職したい方(新卒者、他分野からの転職希望者、再就職希望者等)との福祉の仕事に関する相談会を、対面とWEBのハイブリッド形式で開催します。



[開催日] 対面: 令和5年7月8日(土)
WEB: 令和5年7月7日(金)~8日(土) ※予定
[場所] 高知市文化プラザザかるぼーと 高知市九反田2-1
[問い合わせ先] 高知県福祉人材センター
TEL: 088-844-3511 E-mail: jinzai@pippikochi.or.jp

令和5年度県民いきいき講座

令和5年度県民いきいき講座を5月中旬より開催!
一般県民の皆さま向けに、介護知識・介護技術の普及及び高齢期をより良く暮らすための必要な知識を習得していただくために開催します。講座・開催日時等の詳細については、本会ホームページをご覧ください。

[日時] 令和4年5月中旬~7月 [受講料] 無料
[開催場所] 高知県立ふくし交流プラザ(駐車場200台あり)
[申込受付] 令和5年4月中旬より受付予定
高知県社会福祉協議会 いきいきライフ推進課
TEL: 088-844-9054 FAX: 088-844-9411
E-mail: ikigai@pippikochi.or.jp
(注) 講座は、事前の申し込みが必要です。
(注) 各講座とも先着順に受け付け、定員になり次第締め切ります。



森田有紀さん(48)

特定非営利活動法人とかの元気村副理事長

佐川町の「とかの元気村」は、斗賀野にある「とかの集落活動センターあおぞら」であったかふれあいセンターとかの」を中心に、農業振興や環境維持、地域づくりや歴史文化の継承、健康づくりに取り組むNPO法人。この元気村の副理事長を務めているのが、NPOの活動がある月曜日待ち遠しくてたまらないと笑う、森田有紀さんだ。

森田さんは四万十市生まれ。実家は喫茶店を営んでいて、人と話すことが子どもの頃から好きだった。夫の故郷である佐川町に引越してきたのは今から21年前、結婚と第一子の出産後まもなくのこと。最初は知り合いもおらず地域のこともよく分からなかったが、地区民運動会や町の母子向けの取組みに積極的に参加するなかで、地域に暮らすさまざまな人々とのつながりができていった。

学校事務を経て平成24年に地域包括支援センターへ入職。センターでは百歳体操・健康チェックの広報担当になり、町内のあちこちの地区へと出かけては高齢者の前で体操を実演して普及活動に取り組み始めた。『地域に出る楽しさ』を改めて知ったのは、その頃のことだ。

平成25年、佐川町で「あつたかふれあいセンター」が立ち上げられることになり、その立ち上げメンバー、コーディネーター、「とかの元気村」の副理事長と、なんと3つの大役を担ってくれないかとの声が森田さんにかかった。悩みながらも森田さんは快諾をし、以来各地の事業所へ見学に向くこと数度。

斗賀野で何ができるかを考えながら、走り抜け、平成26年にオープンにこぎつけた。

「あつたかふれあいセンターとかの」が掲げる理念は、「スタッフが元気にならないと、利用者さんも元気がならない」。スタッフそれぞれが自由に考え、自由に発想し、さまざまなイベントや会議を運営している。

センターには、30人から50人の利用者がいる。他のあつたかふれあいセンターと違い、男性の利用者が多いことが特徴で、茶飲み友達のようにぶらぶらとついで、ぶらぶらと帰るルーティンになっている利用者が多いという。その秘訣は四万十市の実家の喫茶店でもやっていたという1杯分がお得になる回数券の「コーヒーチケット」。センターで導入すると、セカンドライフを送る男性陣の利用がぐっと増えた。

そのほかにも、地域の子育て世代や新規就農者などを対象とした若者交流会は、子どもも含め約100名もの人が参加し、バーベキューでの食事や会話を楽しんだ。

コロナ禍における「あつたかふれあいセンター」での活動は発見の連続だった。センターではコロナ禍でも利用者宅への訪問を継続していたが、感染症予防のための行動制限が課されたことで買い物に困る高齢者が多くなっていた。週末などに町内外に暮らす子どもが買い物を手伝っていたのが来ることでできなくなってしまうためだ。そこで、この課題を解決するための生活支援策として開始した買い物代行は、利用者や家族から喜ばれた。

それ以外にも生活支援のニーズが多かったため、生活支援ボランティアの立ち上げも企画した。当初ボランティアはなかなか集まらなかったが、「自分が必要とされている」と、純粋に実感できてうれし」と、少しずつ参加してくれるリピーターとなる地域住民も増えてきた。

勤め始めてまもなく9年。これだけ長く同じところで仕事を続けることははじめてだが、センターに集まるみんなの笑顔や「ありがとう」という言葉をたくさんいただくなかで、強いやりがいを感じているという。

インタビューの最後に森田さんは笑いながら語ってくれた。「これからも斗賀野にはずっと関わっていきたいです。人と関わるのがやっぱり好きなのと、実は調理師免許も持っているの、お弁当屋さんなんかもいいかなと思っっているんですよ」。

プラット こうち VOL.6



コーヒーを楽しむ利用者さんたち



令和5年度 社会福祉施設 総合損害補償 しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険 検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設などに **スケールメリットを活かした割安な保険料で 充実補償をご提供します!**

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

賠償事故	保険金額	
	基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中) 500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき) 1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用	死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

プラン1 オプション5 施設の感染症対応費用補償

休業補償から各種対応費用までワイドな安心

- ① 休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
- ② 消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
- ③ 感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 職員等の補償

プラン4 法人役員等の補償



●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 (引受幹事) 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 (保険会社) TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667
 受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)



高知県内の市町村
社会福祉協議会ご紹介⑤

見られる、感じられる、 また来られる



宿毛市社会福祉協議会

高知県西部に位置する人口約2万人のまち、宿毛市。
そのまちで地域住民の誰もが主体となり、
役割があることを感じられるチャレンジをする
宿毛市社会福祉協議会の取組についてご紹介します。



(上)ファームで育てた野菜を収穫体験
(左)見守られながらおにぎり作り (右) みんなでネモフィラの苗を植えます

地域のプラットフォーム

宿毛市社協では、世代や属性を問わず地域住民が交流し、生きがいや役割を持ち、支え合うことを体験できる場として、社協敷地内に「あったかファーム」(以下、「ファーム」)という農園をつくっています。

このファームは、生活に困窮している方の自立に向けた支援の中で、本人の強みや関心を活かした自己肯定感を高めるためのプログラムの一つとして機能しており、様々な人と団体が連携しながらつくりあげた多様な人が集う場です。

ボランティアを通じた広がりや工夫

そうした場を活用して、地域住民同士がふれあい、支え合うことができる取組ができないかという想いがありました。これまでの取組の中で、特に地元小学生との関わりが希薄であったため、子どもたちとのつながりのきっかけづくりとして、ファームで育てた野菜の収穫体験や、その野菜を使った調理体験、ガーデニング体験を通じて子どもたちが楽しみなが

ら地域の人と交流できるボランティア体験を企画しました。

企画したプログラムには、様々な仕掛けがあります。例えば、食材を購入するのではなく、地元企業や地域住民から調理に必要な食材の提供を受けたり、地元のNPO法人ゆめスマイルさんとコラボして、食事メニューを一緒に考え、宿毛高校地域貢献部の皆さんと一緒にガーデニング体験で植えるためのネモフィラの苗を育てたりして準備を進めてきました。

当日はそれぞれの得意分野を活かした役割を發揮できるよう考えました。調理体験では、大学時代に相撲部でちゃんこ鍋を作った経験のある方がちゃんこ鍋をつくり、ゆめスマイルさんが他の調理を中心的に担いました。また、畑作業が得意な地元のおばちゃんやお米作りをしている民生委員さんがノウハウを活かして収穫作業やガーデニング体験をサポート、宿毛高校地域貢献部の皆さんが子どもたちのお兄さん・お姉さんとして活動を見守るなど、それぞれが役割を持って活躍できる場として機会となりました。

今後の展望について

こうした体験を通じて、参加した子どもたちにも変化がありました。地域をより良くしたいという思いで活動している様々な人がいること。地域に住む誰もが役割があり、支え合っているからこそできることがたくさんあるんだという気づきもありました。

これからネモフィラの花が咲くころには、「子どもたちが自分で植えた花を家族で見に、『また来る』ことができるよね…」とこのボランティア体験を企画した安田さんは笑います。これからも様々な人や団体と連携しながら支援の輪を広げられる地域のプラットフォームとして、誰もが参加できる住民同士がつながりを『感じられる』交流の場となるようこれからも取り組んでいきたいと語ってくれました。



社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

高知市朝倉倉375-1 県立ふくし交流プラザ内
TEL.088-844-9007 / FAX.088-844-3852
E-mail plaza@pippikochi.or.jp



<https://www.kochiken-shakyo.or.jp/>

ふくし交流プラザへの交通のご案内

[お車で越しの方] 高知駅より車で約20分、高知ICより車で約30分、伊野ICより車で約15分、高知龍馬空港より車で約50分。
駐車場：普通乗用車で約180台駐車できます
[公共交通機関で越しの方] 最寄りバス停「朝倉第二小学校前」下車すぐ

QUOカードがあたる！ 読者アンケートに ご協力ください！

「プラットフォーム」をより良い紙面としていくために、みなさまからのご意見をお待ちしております。ご回答いただいた内容は、今後の企画等の参考とさせていただきますので、右記QRコードより6月30日までにご回答ください。ご協力いただいた方の中から抽選で3名の方にクオカード500円分をプレゼントいたします。当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。



アンケートは
こちらから！

